

CIPA

中国インテリアプランナー協会

Chugoku Interior Planner's Association

<http://cipa21.com/>

2006 vol.11
通信

Communication

〒731-5135

広島市佐伯区海老園1-13-7

(有)エルイーオー設計室 内

TEL: 082-923-2132

FAX: 082-922-0018

Email: cipa@cipa21.com



会長のつぶやき

風薫る5月とは本当に良くいったものです。戸を開けて外に出ると、花の香りがどこからともなく流れて来ます。この風に誘われて、憶い出したかのように図書館へ。もちろん愛用の鉄の馬にまたがって。しかし図書館はあいにくの休館日。そっと返却口に村上春樹著「海辺のカフカ」上下2冊を投げ入れた。

テレビでは村上春樹(1949年生)が次のノーベル文学賞の有力候補者だと力説していた。試しにと「海辺のカフカ」を借りて読んでみた。幻想の世界、彼岸の境界が平易な言葉で、身につまされる様な迫力で語られている。

この余勢を駆って、同じ作家の「ノルウェイの森」を読もうとした。ネット販売のアマゾン・ドットコム・ジャパンで検索してみた。「ノルウェイの森(上)」がなんとユースド出品価格1円で売られていた。配送料340円をいれても合計341円。注文してみると、2日後に、新刊並みの本がクロネコメール便で我が家に届いた。この経済の仕組みはどうなっているのでしょうか。何か落とし穴があるのでしょうか。「ノルウェイの森」の書名はビートルズの名曲「Norwegian wood」からとったことをこの1円の本で知る事ができました。

ところでアルフレッド・ノーベルさん「村上ちゃんは生きていうちに、あなたの賞をとれるので賞か」

(9 May 2006 日高卓三)

Interview

インタビューアー:事務局広報

取材:平成18年4月10日

「とき」のひと 第5回 梅田 美春

*このコーナーでは、様々な分野で活動されている方々に登場していただいております。

第5回目のインタビューは染織家の梅田美春さんにお話を伺いました。

Q. 梅田美春さんが作られます世界はとてもダイナミックで大胆な作品なのですが、とてもか細い雰囲気的美春さんからどうしてそんな作品ができるのか不思議なのですが、染色の世界に入る出会いをお聞かせいただけますか？

A. 元々、私は中学校の頃から絵描きになりたかったのです。といいますのも、中学校時代、日展を見まして、絵の世界に入りたくなったのですが、その時も授業では美術を取りたくても、音楽になったり、美術大学に行きたくても当時は広島には美術の専門コースのある大学は広大な教育学部ぐらいしかなく、しぶしぶ地元の短大を卒業しまして、周りの進められるままに結婚しました。大家族の中で毎日の家事に追われ、嫁、妻、母親の役割の中で、ある時、何かこんな筈ではなかったという不安感に襲われ始めました。自分自身を失ってしまったのです。自分の夢への不完全燃焼から拒食症になってしまい、鬱状態が続きました。大家族から離れ、家族だけで住むようになった、夏のある日の事です。かんなの花が咲いていました。私の元に、光風会のチケットを持ってきてくれた友人のお陰で染織家の杉谷先生との出会いがありました。先生自身も主婦からの出発でしたので、私たち主婦を作家として育てたいとの思いに共感し、その時、精神的にもギリギリの状態だった私が、先生との出会いを通じて本来の自分に戻る事ができたのです。結局杉谷先生の元に、15年間お世話になりました。その間に、県美展から始まり、光風会のメンバーとして出品させていただきました。

Q. 今の梅田美春さんの作品のテーマとして表現したいこと、興味の対象等のお話を伺わせてください。

A. 今「天・間・地」という大きなテーマを持っています。人は全て目で見えるものを頼りとして生きています。でも、目に見えない世界もある事。その目に見えないものを、目に見える象（かたち）に置き換える事。群れを作って、気配、空気を作品としてみたいです。その空気、気をそれぞれ見ていただく方の五感で感応してほしいと思っています。モチーフとしては今『手』を…。手の表情はとても面白いのです。見る人のその時、その場で見方や捉え方は、その時の状態によって違ってくるのです。『間』に住んでいる人間。その呪力、魔力。手には目があるのです。その手の目を思い、人間の自分なりの感情を今の今で捉まえてほしいと思っています。そもそもインスタレーションを始めるきっかけになったのは、布の可能性を聞いたかったからなのです。別に染色に限らなくても良かったのです。染色はたまたま表現の手段のひとつにすぎなかったのです。私は作品を作る時、デッサンをして作るという事をした事がありません。手が動く様に描いているだけです。瞬間が点になり、線になります。その線が面に立体になってゆくのです。今、というこの瞬間を大事にしたいのです。今の自分を写してゆくだけ…その写しを人に見てもらっているのです。考えてみれば、作品を通じて自分の恥部を曝しているのかもしれないね。自分の今の生きている有り様を…。沢山ある目に見えないものを象にして見てもらい感じてもらう事。それを淡々と生き、やっているだけです。私の場合、作品を前もって計画して作ってゆく訳ではありません。8部形でできると、うまい具合にその作品を展示する話が舞い込んでくるのです。脳で考えてやっているというよりも、大きな存在があって、未来が先に来ていてやらされているという様な感覚です。私は今まで注文されて作るという事をした事がありません。全身全霊で作り、その作った作品の中から選んでいただいただけなのです。布の可能性を聞いたくて、インスタレーションしているのでしょうか。

美春さんの作品もさる事ながら、目の前でご自身の手を動かしながら語られる美春さんのその存在自体がひとつのインスタレーションを見るようなそんな不思議な時間でした。ありがとうございました。



●Profile

梅田 美春 うめだ みはる

1976年

杉谷 富代氏と出会い染色を始める。

1978～90年

数種のコンペに光風会のメンバーとして出展を続ける。

1991年

以後フリーとなり個展、グループ展を開催。

現在は、染布を主に使ったインスタレーション展、ステージでのコラボレーション、染布の販売等、個展を中心に活動している。

Report

バーゼル (建築の場所)

中川郁孝

今面白い都市はバーゼルだ。この街を訪れて最初に感じたことは交通の利便さ、快適さである。市内の隅々までトラムと呼ばれる路面電車やバスが行き渡っている。近郊の住人はフリーパス券を期間ごとに購入できどこまでいっても乗り放題らしい。また旅行者もほとんどのホテルから発行されるカードによって宿泊期間中は乗り放題である。道路については大きな交差点で、車も路面電車も走っているような複雑な所でも信号機がほとんどついていない。体験した限りでは人が横断歩道にさしかかると必ず車は停まってくれ、差し支えなく街中を歩き廻ることができた。都市としてのクオリティーの高さを容易に感じ取れる。

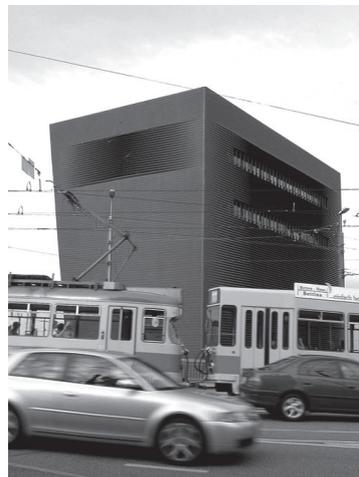
訪れた時期が6月下旬という事で22:30くらいまで辺りは明るい。夕方位になると多くの人たちが広場に面したオープンカフェに集まり始め、日が暮れるまでだらだらとおしゃべりをし、広場には特別なイベントもないのにあふれる程人が集まり夜遅くまでお祭りさわぎだ。もう少し物価が安ければ一度こんな街で暮らしてみたい。

バーゼル中央部から北東にトラムで40分程行ったところにバイエラー財団美術館がある。オープンよりも少し早くついてしまったので周囲を散策し、草むらから外観を寝転がって眺める。やっと出会えたレンゾ・ピアノに胸を躍らせ、オープンと同時に入る。訪れたときは丁度大規模なピカソ展が行われており展示自体も興味深い物だったが、それと同様に建築、空間の構成がピカソ級であった。内部は天井部の可動式のガラスのルーバーで光の遮光率を細かく調整する事ができ、展示の内容によってもっとも適した光を提供することができる。また内部とランドスケープの関係性、連続性がとても絶妙で、どちらかという建物自体よりも際立って感じた。正面のエントランスの前には池がある。その池の水面が建物の床のレベルとそろえてあり、展示室の一つに面してある。そしてその面した展示室にはモネの「睡蓮」ときているから心憎い。その池から緩やかな階段を上がると芝生が広がる。この芝生と池と建物の間隔、階段の勾配と言ったものがなんとも絶妙でバーゼルでの1番のお気に入りとなった。芝生面にはヘルツォーク&ド・ムロン彫刻やカルダーのモビールなどがさりげなくそびえている。その横の清潔感のある伝統的な建物のオープンカフェから田園風景と共に眺めるバイエラー財団美術館。

正確な場所を調べていなかったせいでなかなか見つけることができなかったこの建物は、パウル・クレイ美術館に向かう際に乗った国鉄の車中から外を見ている時に発見した。この建物は1994年に竣工したヘルツォーク&ド・ムロンの代表作の一つである。彼らはこのバーゼルに拠点を置き、多くの建物をこの街に作っている。近年を代表する建築家の2人で、彼らの作るファサードは建築のデザインの中で新しい分野を示し出したと言っても過言ではないだろう。素材の持つ個性と言ったものをより強調させ、その素材でしか出せない独特のファサードを作り出す。

このシグナルボックスは鉄道用の信号舎で、入り乱れる線路がひしめく場所にそびえ立っている。ファサードは横長の細い銅版を巻いてあるようなデザインだ。場所によって銅版を巻き上げてあり、見る角度、見る時間によってその表情は大きく変化する。また銅版で出来ている為、時間が経つとともにファサードも変化する。いつまでも姿を変えない無機質な建築よりも、時間が経ち「味」のある腐ってしまうような建築になれば面白い。ただのガラスやコンクリートなどの素材ではなく、銅版をその場所に用いた行程が、線路、周囲環境のコントラストに合わせた色彩の計画ともなっている。

今回の旅の目玉の1つがパウル・クレイ美術館だ。2005年の6/20にオープンしてまだ1週間程度の時に訪れたレンゾ・ピアノの最新作だ。この美術館はバーゼルから国鉄で1時間かけて行ったベルンの街の高台の上にある。膨大な量のパウル・クレイの作品が展示してある。うねうねと山なりに3段階に曲がったフォルムにまず目が奪われる。斜面上に配置されており半分が地下で上部は地面のレベルと同じになっている。クレイは音楽を大変好み、自信のヴァイオリンの腕も相当のものだったらしい。よって音をイメージした流動的な形になっているそうだ。地面に這って一体化しているような建物を黄金色の麦畑が囲っていた。この2つのエレメントのコントラストが素晴らしい。建物のフォルムといい現実ではないどこか別の空間のような印象を受ける。彼の作品はランドスケープのデザインがとても心地よい。この3つのヴォールトの表面は小分けされたトレイの上に土が乗っており、そこから小さな草が芽吹いていた。時間が経過するとどんなイメージに変化するのだろうか？内部へのメインのエントランスはヴォールトの窪んだ部分から入る。向かって1番左手がレセプションとカフェ。真ん中が展示室。右手がレンゾ・ピアノ関係の展示とミュージアムショップといった具合だ。地下は展示室と割と大規模なワークショップ、コンサートホールが入っていた。空間的な違いは、部屋ごとに小分けされていたバイエラーと大きな空間に壁を配置したパウル・クレイという違いがある。展示室の壁は曲線に沿ったレールから吊るしたような感じで自由に移動が可能だ。面白いと思ったのは例えば普通展示物のすぐ横にはプレートにタイトルなどが書いてある。しかしここでは絵とプレートの感覚が異常な位離れている。抽象的な絵であるだけに視界に入りにくいように配慮し、絵画に集中できるようにしてあるのだろう。バイエラーとはまた違った面白さのある美術館だ。年々彼は建築に対して直接的に接触するようなプランが増えてきたように感じる。



Report

「なぎさ公園小学校を見学して」

吉田祐介（広島工業大学）

「自分もこんな学校に通いたかった。」見学をして最初に出た言葉だ。なぎさ公園小学校は光が満ちて、心地のよい空間が広がっており、まるで学校とは思えなかった。私の学校のイメージは、重々しくどこか緊張感のあるものであった。

この学校は光が溢れていて、今にも生徒の楽しそうな声が聞こえてきそうな校舎である。芝生のグラウンドにはビオトープ、教材園がありたくさんの樹木が植えられている。季節によって様々な表情を見ることができるようになっており、子供たちが自然の美しさ、雄大さを学ぶ環境が備わっていた。好奇心旺盛な子供には打って付けの場である。

また、グラウンドには海からの風が吹いており、とても心地よかった。学習施設は南側に低学年教室、中央に特別教室、北側に中・高学年教室というように分かれている。教室はガラスが多く使われており、光を取り込む工夫がなされている。自然光がとても気持ちいい教室になっていた。教室と廊下の境のドアはガラス戸で、開放感があった。教室のほとんどのものが木製で、木のぬくもりが伝わってきた。光、解放感、木のぬくもりの効果でゆったりとした空間が広がっていた。

この環境なら子供のびのびと育つだろう。いくら条件のそろった環境であっても、実際に学校に通う子供たちが通いたいと思う学校でなければいけないと思う。なぎさ公園小学校は、誰でも快く受け入れてくれるような雰囲気、学校に来るのが楽しいと感じられる学校であると私は思った。

低学年棟と中・高学年棟が別々に分かれているが、私は別々にしない方がいいように感じた。私の学校は全学年が一つの校舎にあった。それにより上級生とコミュニケーションがとりやすかったように思う。コミュニケーションをとることで上級生と仲良くなれるきっかけが生まれると思う。近年の子供達には人とのかかわりのある生活の送れる環境が必要であると考える。下級生は上級生の姿を見て過ごすことで、いいところを学ぶことができるだろう。また、上級生は下級生を思いやる気持ちが湧くのではないだろうか。

村上先生の講演を聞いて印象に残っていることは、住宅を作る上で昔からある決まりごと、伝統的なものを取り払おうという斬新なアイデアである。先生の建物は私が今までに見たことがなく、とてもインパクトがあった。庭に少しの水を張り幻想的な世界があらわされた建物は特に引き付けられた。私もいつか人々を魅了できるような建物を生み出したい。今回、見学の講演を聞いてとても勉強になった。また、いい刺激になった。これを活かしてこれからも勉学に励みたい。



Report

ガラスよもやま話

梅崎晋蔵（近畿大学）

最初はステンドグラスの歴史についてのお話でした。今まで、ステンドグラスというのは、教会等にあり、宗教的な意味合いが強く、あまりなじみ深いものではないと思っていました。しかし、先生のお話を聞いていると、昔はそうであったけれども、今ではインテリアの一部として、身近なものになっていっているとのことでした。実際に先生の作品を見せてもらおうと、宗教的な要素はあまり感じられず、デザインや芸術といった要素のほうが強く感じられ、親しみやすさを感じました。これから先、ステンドグラスへの理解と関心を深めるためにも、絵画やポスターのように、もっと広く取り入れられて行くべきだと思いました。

次のお話は作品とデザイナーとしての仕事のことで、デザイナーの仕事というのは、単に依頼された作品を制作するだけではなく、その作品を配置する場所や、周りの環境の変化にも関心を持ち、いかに作品を良い状態で保つかなどを依頼者に提案し、携わって行かなければならない大変な仕事であるということでした。しかし、ここまでデザイナーが頑張ったとしても、依頼者が一緒に良いものを作っていこうとしなければ、いくら良い作品を作ったとしても、台無しになってしまう場合があるという言葉が耳に残りました。依頼したからには、一緒になって良いものを作ろうとするのは当然のことであり、それが多少なりともできていない状況が起きてしまっているのが残念でなりません。今後は、もっと作品を大事にし、訪れる人などに感動を分かち合ってもらいたいと思っております。

最後に、先生が関心を持っている環境についてのお話を聞きました。その内容は、キリバス共和国という国が、地球温暖化の影響で、海に沈んでしまうというものでした。こんなきれいな国が地球上から消えてしまうのかという寂しさと同時に、その影響がその国の人たちのせいではなく、私たちにあるということが驚きでした。私たちの普段の何気ない生活が、見えないところでいろいろな影響を与えているのは知っていましたが、ほとんど実感を持ったことはなかったので、今回、実際に写真や話などに触れられたことにより、これからの生活の仕方というものを、深く考えさせられる良い機会を与えてもらえたと思えました。

Plannig

...ism

アトリエ平田

敷地は東広島市の中心部より5km、広島大学のキャンパスに近い幹線道路沿いにある。周辺は店舗や集合住宅が建ち始めているが、少し離れたるとのどかな田園風景が残っている。敷地は東西に長く、広さは110坪ほどである。南側に幹線道路が接しており、商業地として恵まれた環境といえる。

ともに美容師であるクライアント夫婦が考えたお店づくりのコンセプトは、自分達の個性を押しつけるのではなく、お客さまの主義や主張を引きだせるお店にしたいという意が込められ、... i s m (フォードット イズム) と名付けられた。

建築構成は、敷地の手前で緩やかにカーブしている幹線道路からの視認性を生かすため、コンクリート造のアール壁を設け、アール壁に沿って駐車スペースに車を導入できるような建物を配置している。建物は鉄筋コンクリート造の2層とし、1階は美容院、2階に居住スペースという構成である。

1階の店舗は、開放的でありながら落ち着きのある空間になるよう計画した。アール壁が外部と内部を貫通しながら、開口と壁を同じ大きさで繰り返すことで、内外が曖昧な空間になっている。場所によって均質でない空間の雰囲気を、店舗機能に生かした。インテリアは、コンクリート打放し壁が主張しすぎないように、アール壁に杉板型枠を用い、間仕切り壁は同じ杉板を張っている。光の当たり具合によって、コンクリートが柔らかく感じ、時には力強く感じる。使用材料を抽象化することで、お店づくりのコンセプトに合わせるよう努めた。

1階より立ち上がるシンボリックなアール壁の2階内側は、居住スペースのルーフトラスを構成している。これにより、生活感をおもてに出さずに開放的な居住空間が成立できた。



■ 建築概要

所在地 広島県東広島市西条町下見
主要用途 店舗(美容院)併用住宅
設計監理 アトリエ平田
施工 株式会社神垣組

構造規模 RC造 一部S造 2階建
敷地面積 375.99 m²
建築面積 106.02 m²
延床面積 173.10 m²

リフォーム 邑久の農家

YONEYAMA 1級建築士事務所

古い農家のリフォームです。

柱・梁は立派な木材を使っており構造的には問題ないのですが、昔的な間取りを現代のニーズに合わせて空間ごとリフォームしようという計画です。

リフォーム前は台所、食堂、居間がそれぞれ4~6帖の小さな独立した部屋になっており、狭く暗い雰囲気になっていました。リフォーム後は、構造的に必要な柱はインテリアを兼ねた飾り棚として残しつつ、壁を全て取りはらい広々とした対面キッチンのLDKとしました。

奥様がパッチワークやダンスが趣味という方で、明るい洋風のインテリアにしたいとの要望がありましたので、壁はクリーム色の塗り壁にしました。

ご主人の要望で、ダイニングキッチン的一角に洗面スペースを設けています。洋風のインテリアに合うように、アーチ型の下がり壁や輸入照明を使うなどして造作家具として洗面台をデザインしています。



■ 建築概要

所在地 岡山県瀬戸内市邑久
主要用途 専用住宅
設計監理 YONEYAMA
一級建築士事務所
施工 米原建築

Report

「倉吉・投入堂見学会」

羽村知佐子

中国インテリアプランナー協会では初の鳥取での見学会の開催となりました。

倉吉の町は14世紀から16世紀にかけて城が築かれていた打吹山裾野に形成された城下町で、玉川沿いに並ぶ白壁土蔵群は国の重要伝統的建築物群保存地区に定められています。町並みの景観は大きく2つに分かれ、商家の主屋を主体とした景観と土蔵を主体とする景観です。両者とも建物の屋根瓦が赤褐色瓦となっており美しい景観をみることができました。

その後、三徳山・三佛寺、通称「投入堂」へ向かいました。慶雲3年(706年)役行者が神窟を開き、このお堂を投げ入れた、とされています。もともと修行の場としての登山道というだけあってかなり険しい急斜面が続きました。「かざら坂」は木の根を頼りに手を使い這いつくばるように登って行きました。文殊堂は改修工事中でしたが急斜面にどこからどう足場を組んだのでしょうか。

さらに「馬の背」と呼ばれる岩を通して地蔵堂へ。周囲は回廊として一周できるようになっており大自然の絶景を堪能しました。その後いくつかのお堂を経てやっと投入堂に到着しました。岩窟に包み込まれるようにその中に建っています。どのように建てられたかはいまだ未解決でそこがまた魅力の一つなのでしょう。周囲の自然環境に調和し、自然の立地を最大限に利用して配置されており圧倒される思いでした。今、人間も建物も自然との調和から学ぶべきものは多くあります。1000年前の投入堂にこれからの建物の姿を見たような気がしました。



Topics

子供の家具展

広島工業大学 山本和弘

Chica Chico 1周年記念事業子供家具デザイン展

Chica Chicoの1周年記念事業として子供家具デザイン展「私たち大人は子供達に何を伝え、何を残しますか」というテーマを掲げ、平成17年12月20日～12月25日の6日間、広島市中区のアーバンビューグランドタワーの前にあるgallery-Gという展示場で開催しました。Chica Chicoとは子供的生活雑貨・玩具・インテリア家具などの販売店です。その店長で「子供家具デザイン展」の主催者である山本剛さん、その方の父で建築家の山本胖さんを中心に、この展示会は進められていきました。展示品は、ピーター・オプスヴィックの“トリップトラップ”“バランスチェア”、ハンスウェグナーの“ピーターズチェア”、アルネ・ヤコブセンの“子供用セブンチェア”など海外の有名なデザイナーの作品や、日本からは阿久津雄一の“フォルミオ”、佐々木敏光の“バンビーニ”などを展示しました。これらの作品のつくられた国は違いますが、質の高いデザインが子供の豊かな心を育むこと、そして一生使える家具によってモノを大切にすることや使い切る素晴らしさを伝えるもので、来場された方々にシンプルで美しい生涯家具の良さというものを伝えることができたと思います。私はこの家具展で、主に来場された方のお子さんのお世話をさせてもらいましたが、子供たちと一緒にいることで多くのことに気付かされました。その中のひとつが私たちとはモノの見方が違うことです。親御さんたちは家具に興味を持ち、その家具についていろいろと聞かれます。しかしほとんどの子供たちは真っ先に「おもちゃ」のコーナーに走りまわりました。おもちゃで遊ぶうとするけど頭を使って遊ぶものが多くあったので、最初はなかなかうまくいきません。でも少し遊びか方を教えてあげると、そこから私たちが思いもつかなかった遊び方をいろいろと見つけるのです。今の私にはできない、いろいろな可能性を秘めた柔軟な発想ができるからこそそのようなことができるのだと思います。親御さんたちにとって子供に残したいのは「財産よりも優しい心と豊かな感性」という意見が大多数を占めました。しかし現代の世の中では豊かな感性を養うということが難しくなっています。人の自己形成でもっとも大切な期間は生まれてから3才になるまでの間だと言われています。だからこそ幼少期から良いものに触れ、自らの手足、頭を使い五感や心を研ぎすましていてもらいたいと強く感じました。この家具展に来場された方は、とても高い意識で子育てをされていて、我が子への愛というものをとても感じました。来場されてない方の中でもそのような方々はたくさんいると思います。しかし、そうでない方にはぜひ一度、素晴らしい生涯家具に触れてもらいたいと思います。そして少しでも多くの子供たちに自分なりの個性を見つけられるきっかけを与えたいです。私はこの子供家具デザイン展を通して、良いデザインの本質というものを学びました。今後、この世の中が本当に素晴らしいデザインに溢れることを期待します。



IPEC21

IPEC21-2006

6th INTERIOR PRO EX CO

www.ipec21.jp

2006年11/22[水]-25[土]

東京ビッグサイト〈西ホール〉

インテリアからの発信

ひと
環境
デザイン

彩

IPEC21 とは

IPEC21 は、今までの他の展示会とは異なり、インテリアプランナー、インテリアデザイナー、インテリアコーディネーターをはじめとしたインテリア・建築のプロフェッショナルを来場者対象とした質の高い展示会を目指しています。そのため、商品そのものではなく、プロが求めるインテリア・建築に関する材料・製品・システム・空間などの計画・技術情報の開示を展示する、プロとプロの交流の場となっています。今年のキーワードは「彩」です。

2006年11月22日～25日

東京ビッグサイト〈西ホール〉

主催 日本インテリアプランナー協会

同時開催 ecobuild2006 すまい・建築・都市の環境展

JAPANTEX2006

2006 東京国際家具見本市

編集後記

先日、ある先生に出会い、鎮守の森、祭りについてのお話を伺った。つい私たちは仕事から、まちを思う時、最初にイメージしてしまうのは、建築物であり、その建築物を取り囲む環境であったりするのだが、その前に、そのまちを構成している、「人」がいかに大切な要素であるかを忘れがちになってしまう。まちづくりの前に、人づくりがどんなに大切であるかを...。その「人」が、まちの大切な財産である事を...。この中国インテリアプランナー協会が、ひとりひとり、こんなに素晴らしい最高の財産を所有しているのだと自負できる会に成長してゆける事を願って...

これまでホームページへの多くのアクセスの方ありがとうございます。この度、中国インテリアプランナー協会のホームページ内 (<http://cipa21.com/>) におきまして blog の方を公開することとなりました。現在数人のプランナーの方に協力いただき興味深い記事の方が掲載されております。これからも何かおもしろい記事の方がありましたら当局の方までよろしくお願い致します。

中国インテリアプランナー協会事務局
mail : cipa@cipa21.com

賛助会員紹介

アイカ工業株式会社

730-0037
広島県広島市南区霞 2-9-10
T:082-254-1311
F:082-255-8817
<http://www.aica.co.jp/>

大光電機株式会社

730-0813
広島県広島市中区住吉町 16-3
T:082-247-6711
F:082-249-5472
<http://www2.lighting-daiko.co.jp>

ニッポ電機株式会社

730-0851
広島県広島市中区榎町 8-3
T:082-233-8211
F:082-233-3500
<http://www.nippo-web.com/>

安田女子大学

731-0153
広島県広島市安佐南区安東 6-13-1
T:082-878-8111
F:082-872-2896
<http://www.yasuda-u.ac.jp/>

榊沖田

730-0053
広島県広島市中区東千田町 2-3-17
T:082-243-1101
F:082-247-6237
<http://okitahome.com/>

㈱テックス

732-0052
広島県広島市東区光町 1-6-8
T:082-263-4554
F:082-263-7558
<http://tex-21.com>

西武株式会社

730-0843
広島県広島市中区舟入本町 18-3
T:082-292-9740
F:082-295-0073
<http://www.seko.co.jp/>

ヤマギワ株式会社

730-0032
広島県広島市中区立町 2-25 9F
T:082-249-5255
F:082-246-1787
<http://www.yamagiwa.co.jp>

株式会社ウッドワン

738-0022
広島県廿日市市木材港南 1-1
T:0829-32-9833
F:0829-32-9839
<http://www.woodone.co.jp/>

トーソー(株)

733-0037
広島県広島市西区西観音町 9-7 1F
T:082-232-0439
F:082-232-0432
<http://www.toso.co.jp/>

(有) PathGate

731-5145
広島県広島市佐伯区三筋 2-7-41-602
T:082-921-7171
F:082-921-7171
<http://www.pathgate.jp>

続・バルセロナからの寄稿 「SLOW SCAPE」

バルセロナ滞在も早4年目を迎えようとしています。私はランドスケープ・アーキテクトですが、こちらに来てからは一貫してローカルの建築事務所で働いてきました。ランドスケープ・アーキテクトの概念が比較的新しいスペインでは、アーキテクトがランドスケープのプロジェクトをこなしてきた慣習があります。カタルニア工科大学にランドスケープ・アーキテクトの修士課程が設立されて10年にも満たない状況です。

事務所で20人余りのアーキテクトと仕事をしていると、プロジェクトへのアプローチの仕方の違いを実感します。アーキテクトにとって、建築物の周りのランドスケープは余剰物で、予算があれば木の一本でも植えようか、ということになりますが、予算がなければアスファルトで固めてしまえ、といった態度が伺えます。

ランドスケープのプロジェクトが竣工の5年、10年先を見越して、プロジェクト竣工後もプロジェクトの一環として捉えるのに対して、建築は一旦建ててしまえば、その時点でプロジェクトとは縁が切れてしまう傾向があります。またランドスケープのプロジェクトの中にはそのスケールが大きい分（ゴミ処理場跡の復興プロジェクト、採石場跡の復興プロジェクト等）、竣工に至るまで10年、15年と施工期間が長いものがあります。そのためプロジェクトの完成に至る過程もプロジェクトの一環として捉えることが重要不可欠となります。プロジェクトの施工過程の各時点における経済、政治状況に応じて臨機応変に対応修正できるプロジェクトが優れたプロジェクトと評価されます。

SLOW FOODという言葉をご存知でしょうか。FAST FOODではなくSLOW FOOD。何を食べるかも重要ですが、誰と何処で、どんな状況で食べるかをより重要視する。食べる過程を楽しむ。ランドスケープにも同じことが適用できるのではないのでしょうか？ FAST SCAPEではなくSLOW SCAPE。行き先が不透明な今の時代に、完成品を作るのを急ぐのではなく、作る過程を楽しむ、また作品完成後の変化を見据える、そういうプロジェクトが求められる時代に来ていると思います。



ランドスケープ・アーキテクト /バルセロナ在住
飯富 美香

平成17年度 中国インテリアプランナー協会活動記録

- 2005.05.28 インテリアプランナー協会全国大会（名古屋）
- 2005.06.04 総会
- 2005.06.04 第4回ミニレクチャー
「福祉工学のすすめ」 宇土博
- 2005.06.24 第5回ミニレクチャー
「ガラスよもやま話」 宮田洋子
- 2005.07.06 第6回ミニレクチャー
「イリア・丹藤翠氏の仕事 No.2」 丹藤翠
- 2005.09.28~30
IPEC21-2005
- 2005.10.16 見学会
「白壁土蔵群・商家の街並み・投入堂」
- 2005.11.19 見学会・講演会
なぎさ公園小学校「場所と建築」 村上徹

〈平成18年度総会のご報告〉

- 6月10日（土）13:00~14:00
- 広島市中区加古町 4-17
アステールプラザ 中会議室
- 平成17年度活動報告及び会計報告
- 平成18年度活動計画及び予算案の承認
- その他
平成18年度総会を上記の要領で開催いたしました。
会員の皆様に多数ご参加いただきありがとうございました。

〈事務局より〉

- ・平成17年度会費未納入の方は、早急に納入下さいませようお願いいたします。
- ・住所変更、事務所移転などありましたらお知らせください。
又、近況報告も随時お寄せください。
- ・新会員募集
当協会では新規ご入会の会員を募集いたしております。インテリアプランナー資格者の方ご紹介くださいますようお願いいたします。
- ・国民健康保険にご加入の方へ
CIPA 会員で加入条件を満たす方は、
「文芸美術国民健康保険」に4月1日より加入できるようになりました。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<http://www.bunbi.com/>

〈(財)建築技術教育普及センターより〉

平成16年度 インテリアプランナー試験の結果

	学科試験	設計製図試験
受験者数	334人	438人
合格者数	185人	130人
合格率	55.4%	29.7%

平成16年度 中国インテリアプランナー協会会員数

正会員:74名 準会員:0名 学生会員:18名 賛助会員:11社
平成18年度 5月10日現在

発行者:中国インテリアプランナー協会
〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-13-7
TEL. 082-923-2132 FAX. 082-922-0018
HP: <http://cipa21.com/> E-mail: cipa@cipa21.com
発行日:平成18年6月